

平成22年3月期 第2四半期決算説明会

2009年11月11日

阪和興業株式会社

- 本年度第2四半期決算は、
需要増加と市況高騰局面にあった前年同期に対し、市況・需要ともに低迷したことなどから、売上高は前年同期比41.6%減の5,319億46百万円となりました。利益面でも、前年同期の市況急騰による在庫商品販売での増益効果がなくなったため、第2四半期純利益は前年同期比75.0%減の25億50百万円となりました。
- 通期業績予想は、

売上高	1兆1,060億円	(第1四半期での予想値据置き)
営業利益	148億円	(第1四半期での予想値据置き)
経常利益	120億円	(第1四半期での予想値据置き)
当期純利益	72億円	(第1四半期での予想値据置き)
- 配当については、中間配当を6円、期末配当6円を予定しています。

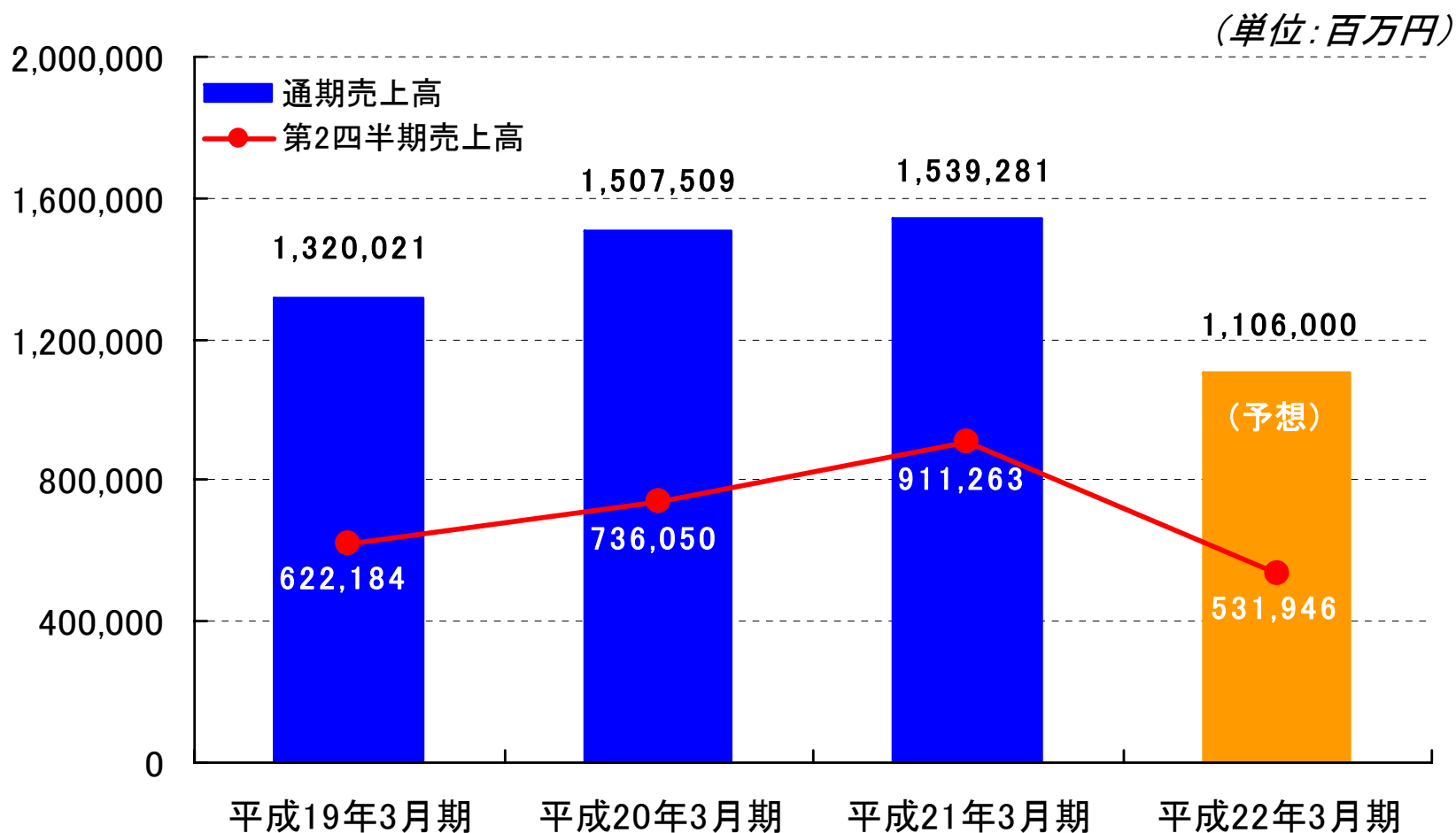
経営成績(連結)



(単位:百万円)

	当第2四半期	前第2四半期	前年同期比
売上高	531,946	911,263	Δ41.6%
営業利益	5,708	19,819	Δ71.2%
経常利益	5,139	19,340	Δ73.4%
第2四半期 純利益	2,550	10,216	Δ75.0%
1株当たり 第2四半期純利益	12円19銭	48円34銭	Δ74.8.%

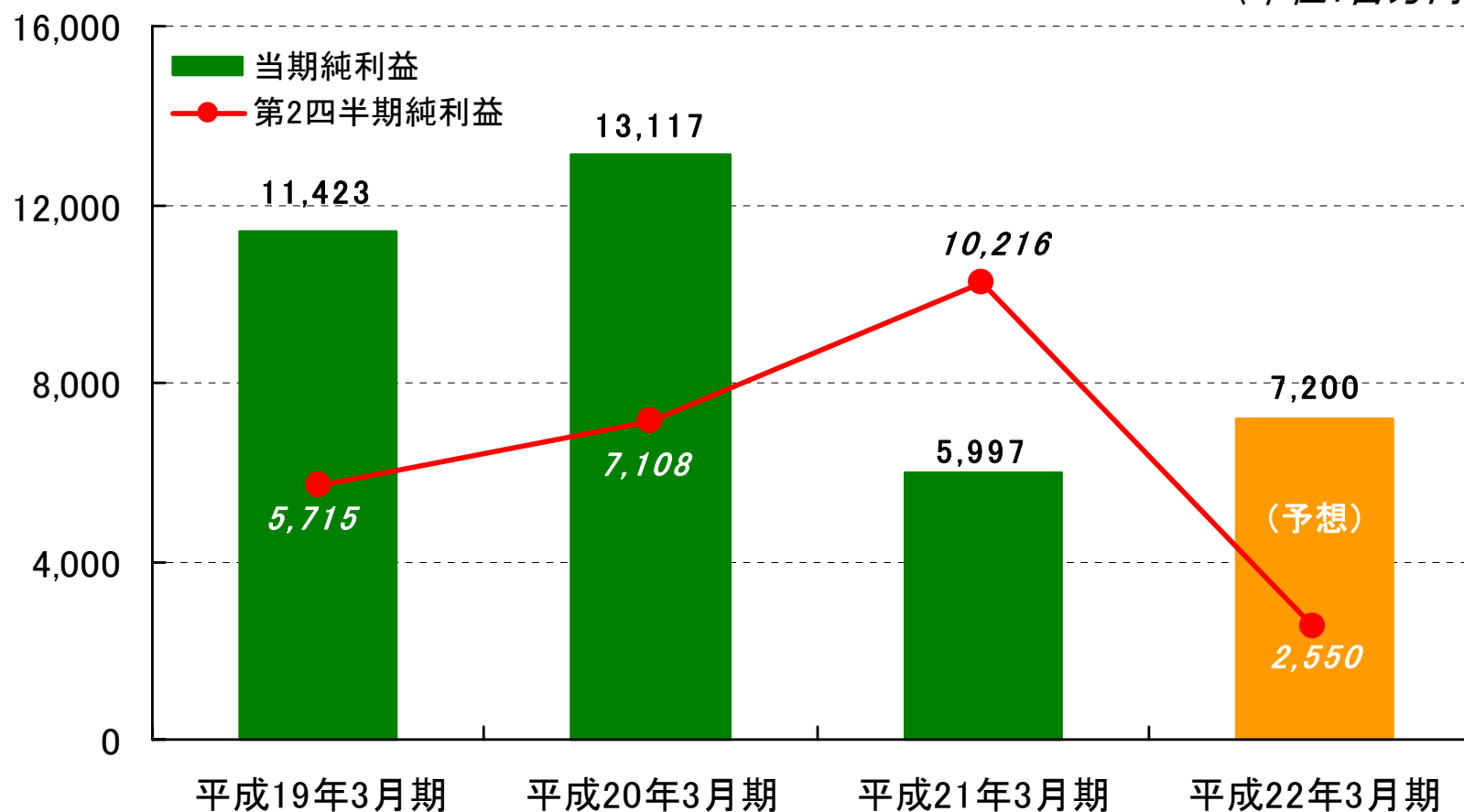
ここ数年は世界的な好景気を背景に、販売量・価格ともに上昇し、拡大基調にあったが、前年度下期以降の需要急減により、今期は減収となった。



当期純利益推移(連結)

前年度下期からの景気悪化による需要減少により、当第2四半期では前年同期比でマイナス75%の減益となった。

(単位:百万円)



財政状態(連結)



(単位:百万円)

	当第2四半期末	前期末	前期末比
総資産	436,511	479,379	△8.9%
負債	336,693	384,466	△12.4%
純資産	99,817	94,912	+5.2%
自己資本比率	22.7%	19.7%	
1株当たり 純資産	473円86銭	450円05銭	
負債倍率(ネット)	1.5倍	1.9倍	△22.1%

キャッシュ・フローの状況（連結）



（単位：百万円）

	当第2四半期	前第2四半期	前年同期比
営業活動による キャッシュ・フロー	43,346	Δ23,934	(+281.1%)
投資活動による キャッシュ・フロー	Δ8,111	Δ14,713	Δ44.9%
財務活動による キャッシュ・フロー	Δ35,727	43,636	(Δ181.9%)
現金及び現金同等物 期末残高	34,606	19,562	+76.9%

セグメント別の状況（連結）



売上高

	当第2四半期	前第2四半期	前年同期比
鉄 鋼	303,772	498,948	△39.1%
金属原料	41,973	98,509	△57.4%
非鉄金属	19,808	37,310	△46.9%
食 品	36,172	43,601	△17.0%
石油・化成品	107,844	204,324	△47.2%
その他	22,374	28,568	△21.7%
計	531,946	911,263	△41.6%
消去 又は 全社	(-)	(-)	—
連 結	531,946	911,263	△41.6%

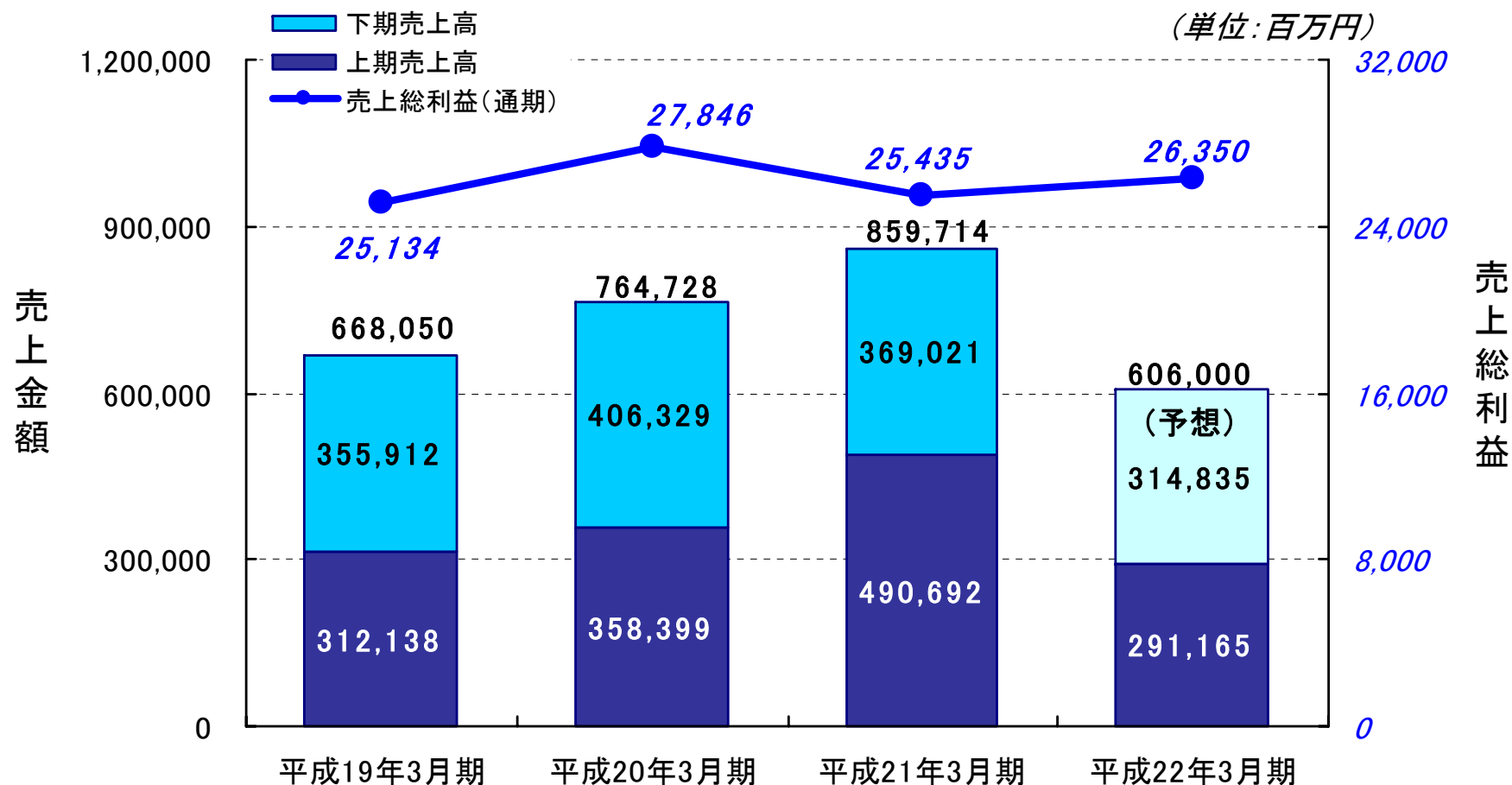
営業利益

(単位:百万円)

	当第2四半期	前第2四半期	前年同期比
鉄 鋼	4,525	12,784	△64.6%
金属原料	1,136	3,715	△69.4%
非鉄金属	483	1,183	△59.2%
食 品	672	1,100	△38.9%
石油・化成品	563	2,392	△76.5%
その他	1,156	1,614	△28.4%
計	8,538	22,790	△62.5%
消去 又は 全社	(2,829)	(2,971)	△4.8%
連 結	5,708	19,819	△71.2%

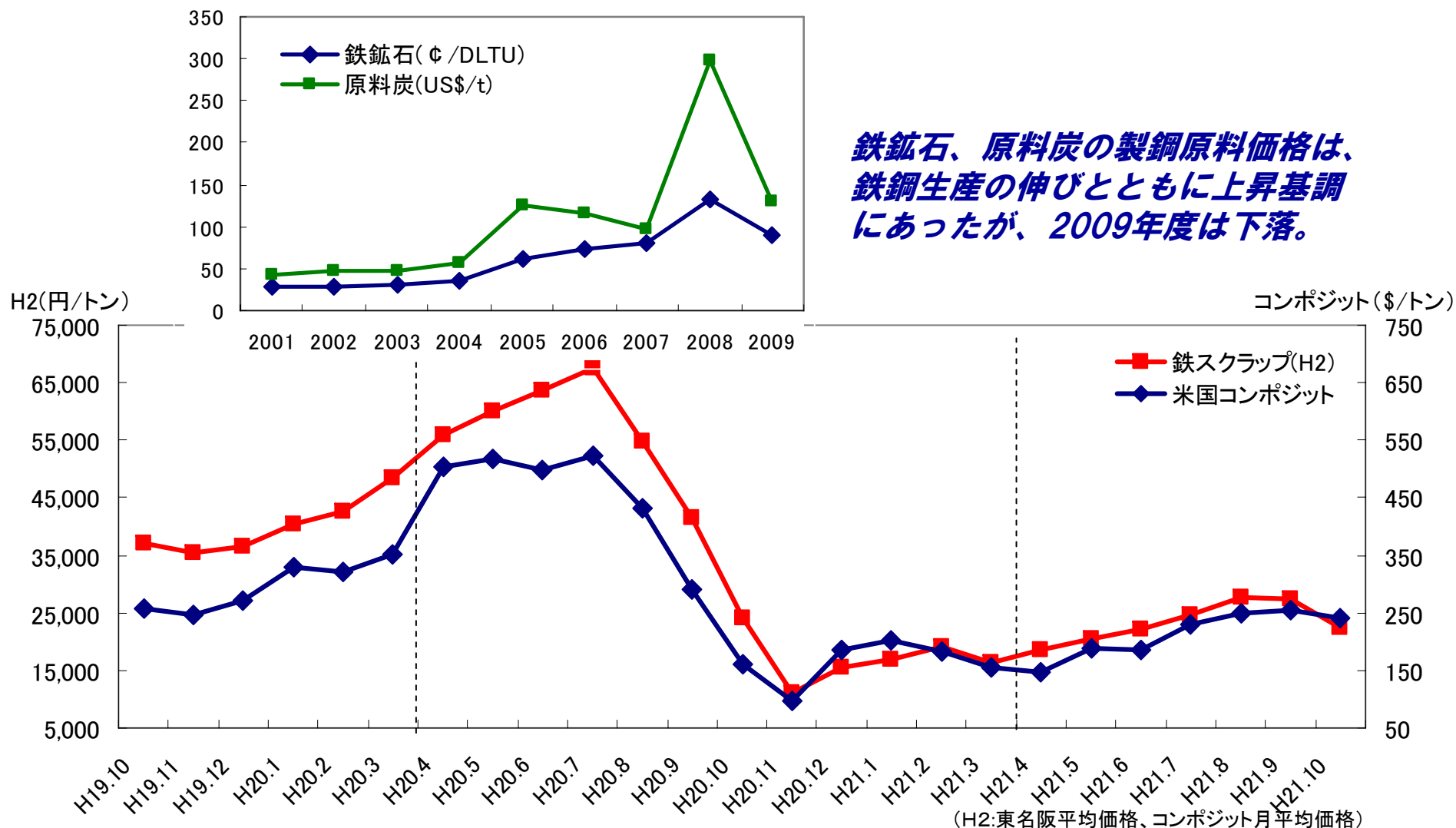
鉄鋼事業の売上高・利益推移（単体）

鉄鋼市況の低迷、需要減少により減収に。下期も大幅な回復は見込めず、通期売上総利益も前期並を見込んでいる。



鉄スクラップ 市況推移

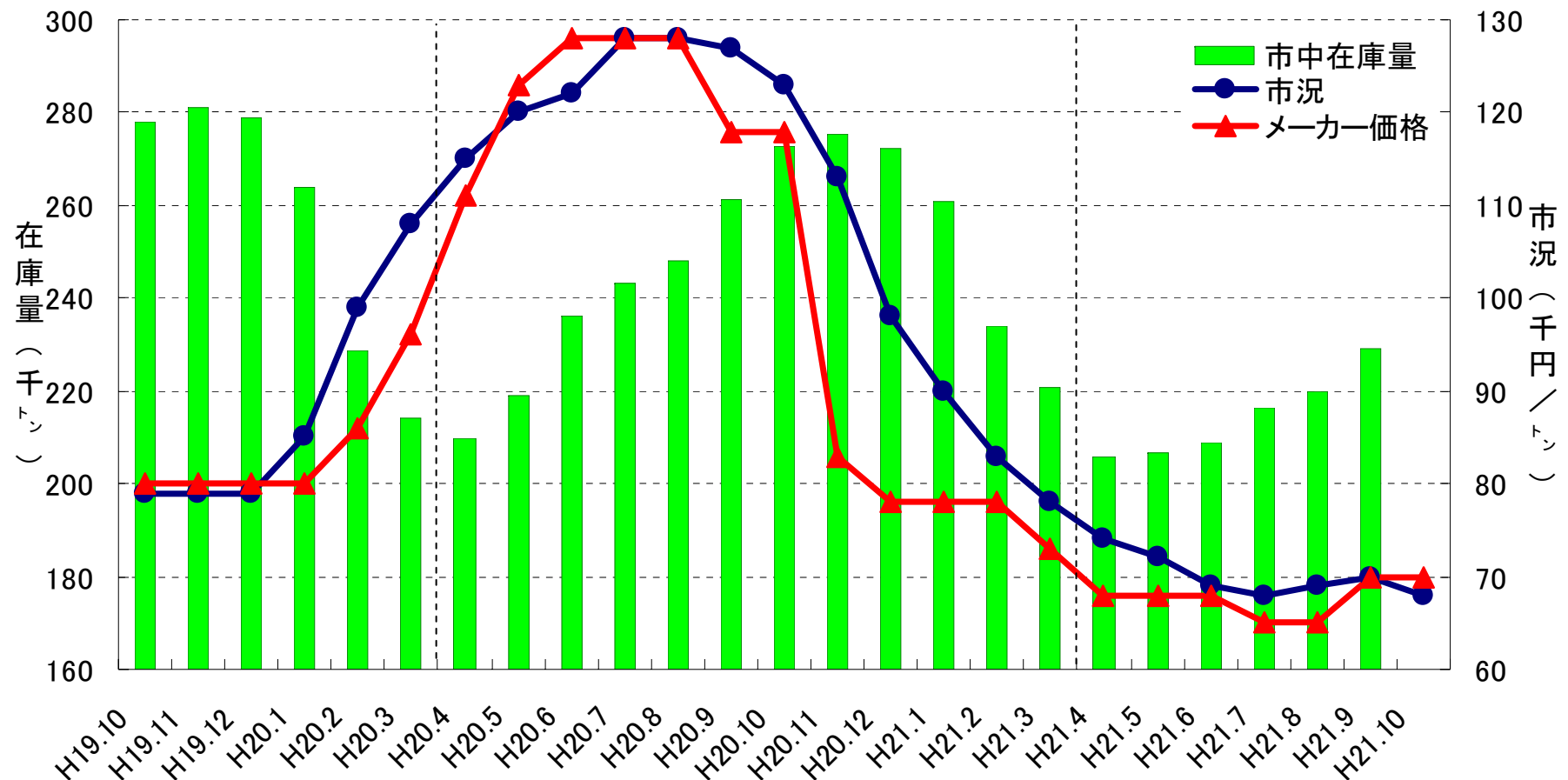
前年度下期の急落局面から主に中国需要の増加により市況はジリ高に推移するも、足下では中韓の買い意欲の低下により調整入りし、一進一退の展開に。



H形鋼 市中在庫量と市況推移



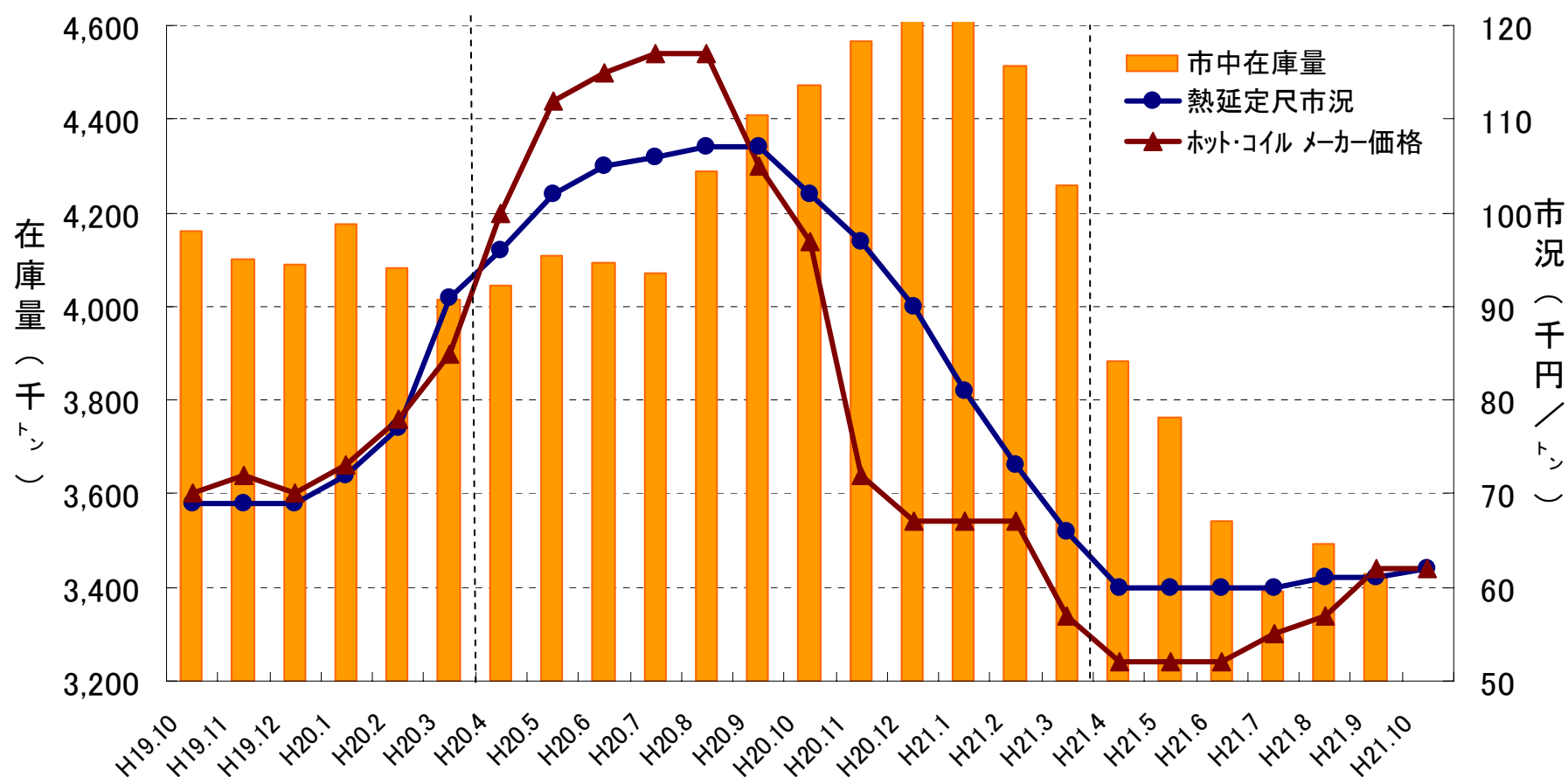
市況急落による減産強化により在庫水準は適正化するも、需要低迷で市況は回復せず。スクラップ価格上昇を背景にした製品値上げの動きも不発に。



(在庫:ときわ会調べ、価格:鉄鋼新聞)

薄板3品 市中在庫量と熱延鋼板市況推移

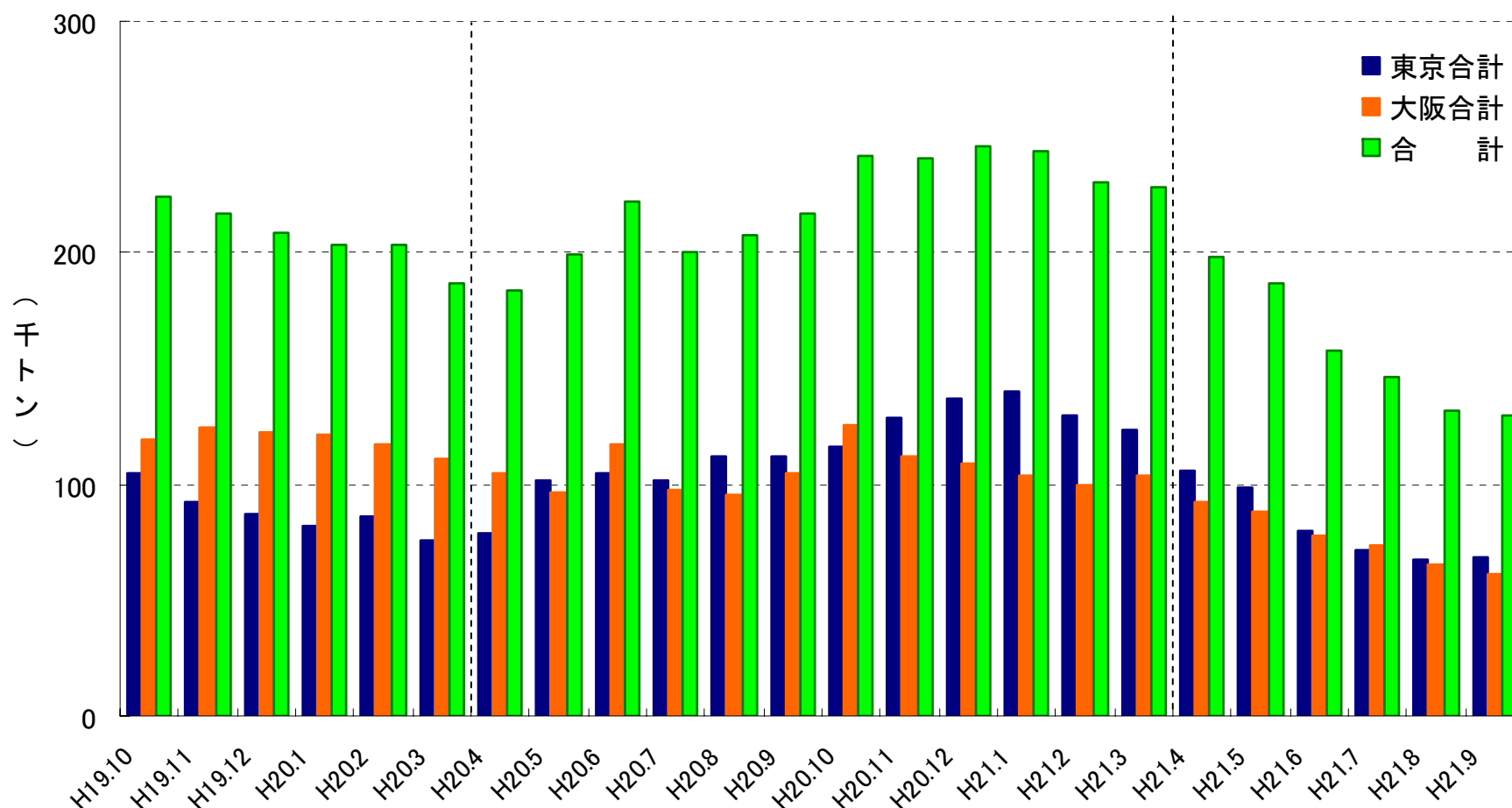
製造業向け需要急減に対する在庫調整は進展したものの、市況は横ばい。
海外市況は上昇局面にあったが、中国の市況低下により調整局面へ。



(在庫:日本鉄鋼連盟、価格:鉄鋼新聞)

輸入鋼材 岸壁在庫の推移

輸入鋼材の入着実績は、国内需要の低迷により低水準にて推移。岸壁在庫も漸減傾向にある。



(阪和興業株式会社調べ)

セグメント別の状況（連結）



売上高

	当第2四半期	前第2四半期	前年同期比
鉄 鋼	303,772	498,948	△39.1%
金属原料	41,973	98,509	△57.4%
非鉄金属	19,808	37,310	△46.9%
食 品	36,172	43,601	△17.0%
石油・化成品	107,844	204,324	△47.2%
その他	22,374	28,568	△21.7%
計	531,946	911,263	△41.6%
消去 又は 全社	(-)	(-)	—
連 結	531,946	911,263	△41.6%

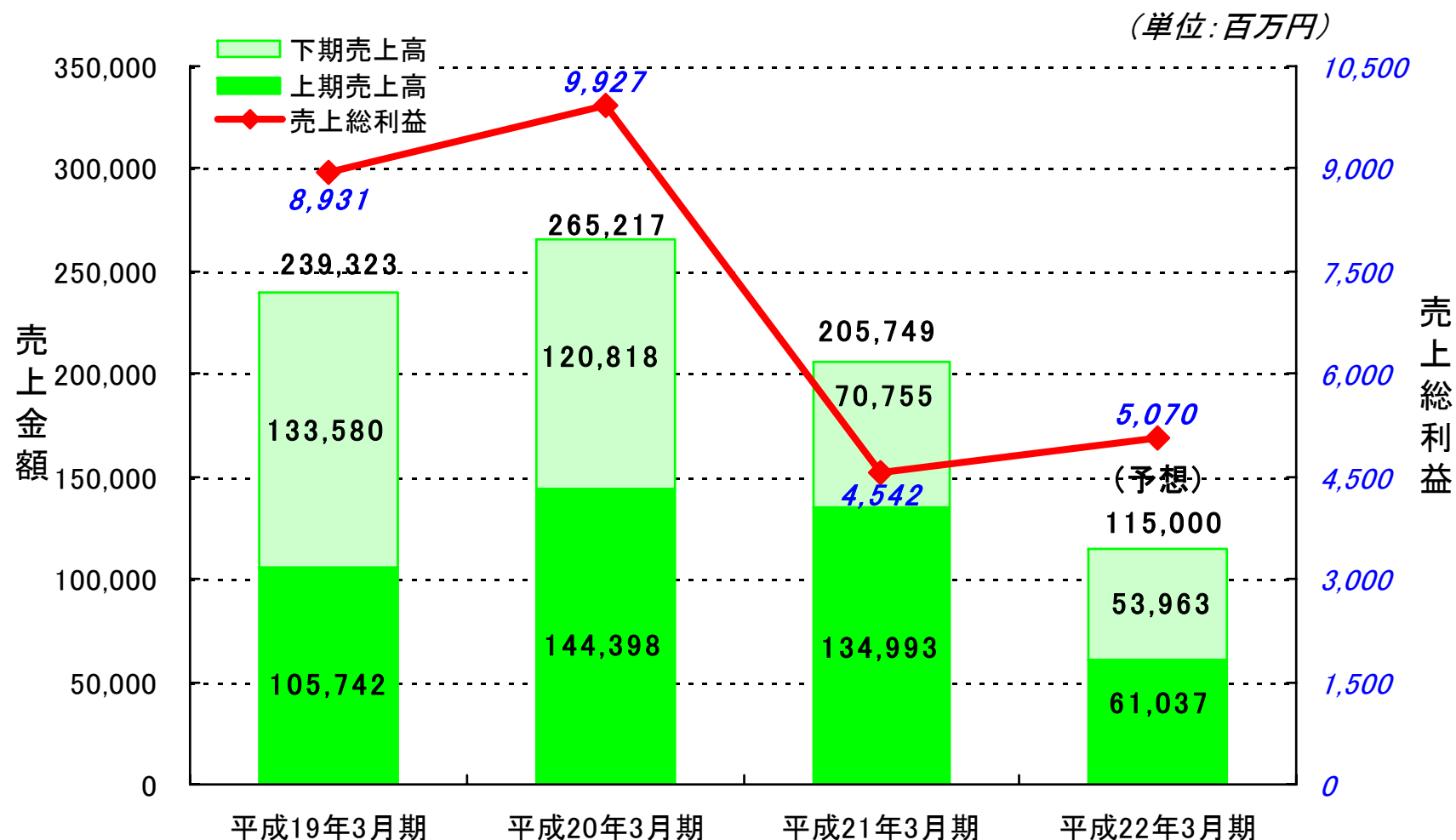
営業利益

(単位:百万円)

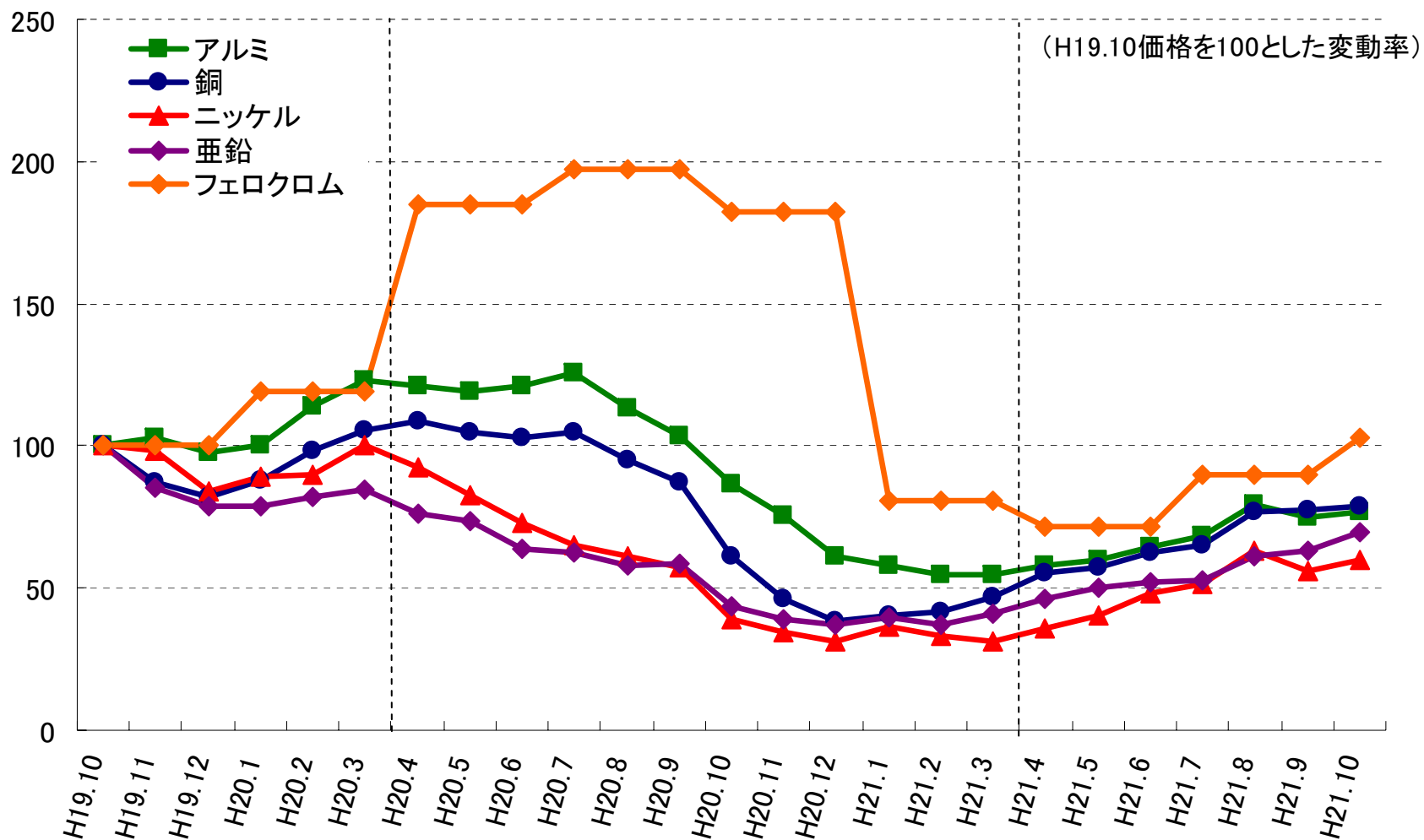
	当第2四半期	前第2四半期	前年同期比
鉄 鋼	4,525	12,784	△64.6%
金属原料	1,136	3,715	△69.4%
非鉄金属	483	1,183	△59.2%
食 品	672	1,100	△38.9%
石油・化成品	563	2,392	△76.5%
その他	1,156	1,614	△28.4%
計	8,538	22,790	△62.5%
消去 又は 全社	(2,829)	(2,971)	△4.8%
連 結	5,708	19,819	△71.2%

金属原料・非鉄金属事業の売上高・利益推移（単体）

鉄鋼メーカー・ステンレスメーカーの減産により、ニッケル・クロム・合金鉄類の需要は低水準に推移。中国需要の急増で市況持ち直すも、先行きは不透明。



LME品種価格は今年度に入り、中国需要の回復と先高見込みによる投機資金の再流入などで上昇。フェロクロム価格も需要回復と南アフリカの電力事情などにより上昇している。



セグメント別の状況（連結）



売上高

	当第2四半期	前第2四半期	前年同期比
鉄 鋼	303,772	498,948	△39.1%
金属原料	41,973	98,509	△57.4%
非鉄金属	19,808	37,310	△46.9%
食 品	36,172	43,601	△17.0%
石油・化成品	107,844	204,324	△47.2%
その他	22,374	28,568	△21.7%
計	531,946	911,263	△41.6%
消去 又は 全社	(-)	(-)	—
連 結	531,946	911,263	△41.6%

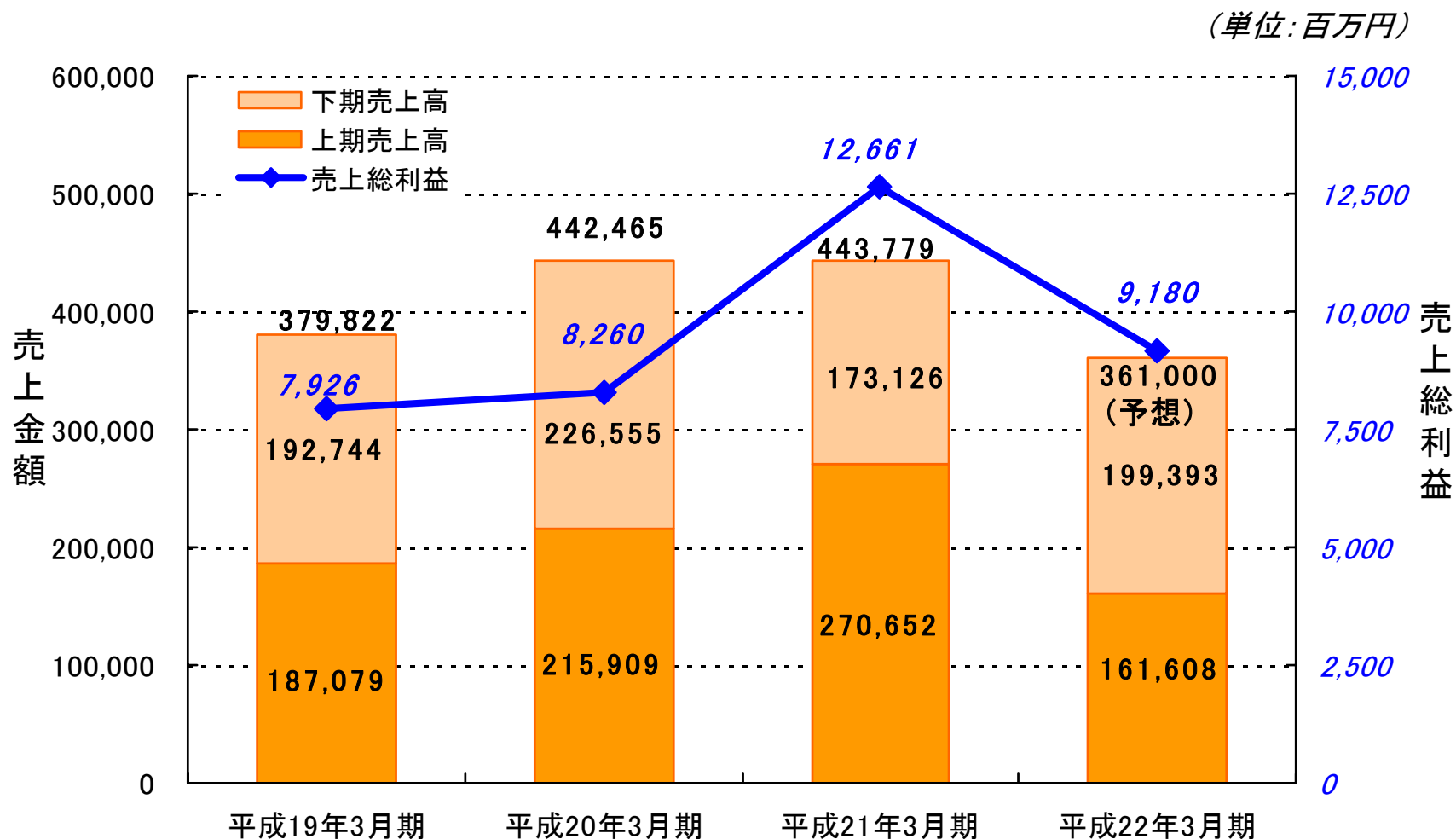
営業利益

(単位:百万円)

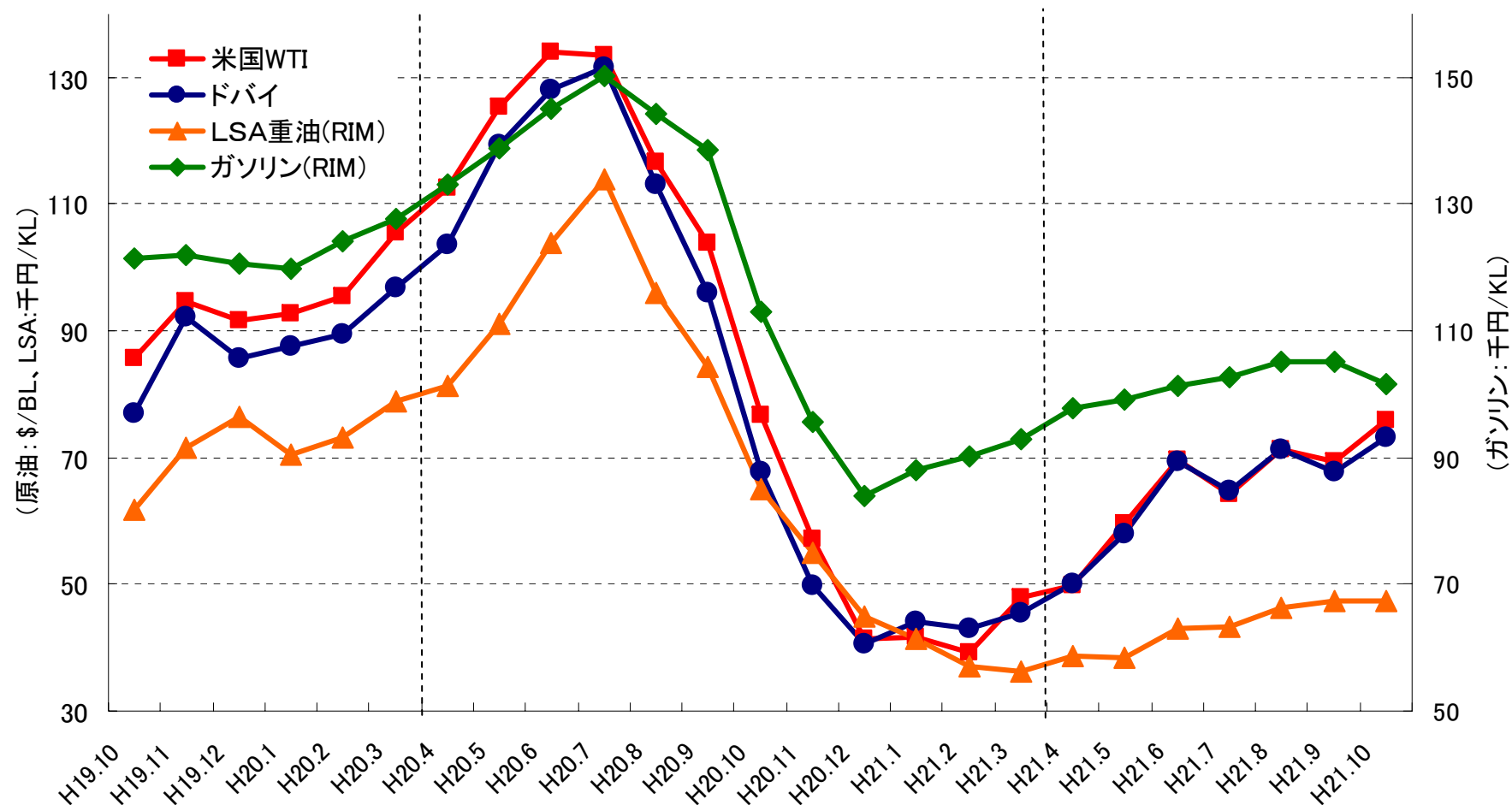
	当第2四半期	前第2四半期	前年同期比
鉄 鋼	4,525	12,784	△64.6%
金属原料	1,136	3,715	△69.4%
非鉄金属	483	1,183	△59.2%
食 品	672	1,100	△38.9%
石油・化成品	563	2,392	△76.5%
その他	1,156	1,614	△28.4%
計	8,538	22,790	△62.5%
消去 又は 全社	(2,829)	(2,971)	△4.8%
連 結	5,708	19,819	△71.2%

食品・石油・化成品・その他の事業の売上高・利益推移（単体）

石油・化成品部門を中心に収益規模を拡大してきた当部門も、今年度上期は需要・市況の低迷を反映して、減収となる。



原油価格は昨年夏をピークに急落したものの、今年に入り上昇局面入り。一方、石油製品価格は需要の低迷を反映して上昇力が弱い。



平成22年3月期(通期)の連結業績予想



第2四半期までは概ね期初見込みの水準で推移しているが、下期は一部業界では回復が見られるものの、景気停滞の懸念も払拭できないため、通期見通しは据置きとしている。

配当は安定配当を重視し、中間配当6円を実施予定。年間配当も12円に据置。

(単位:百万円)

	第2四半期累計	通 期 予 想	平成21年3月期
売 上 高	531,946	1,106,000	1,539,281
営業利益	5,708	14,800	17,451
経常利益	5,139	12,000	15,007
当期純利益	2,550	7,200	5,997

	年 間	中 間	期 末
1株当たり配当金	12円00銭	6円00銭	6円00銭

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。